

現任研修ガイダンス

- ①本研修の獲得目標
(人材育成ビジョンと本研修の位置づけ)
- ②プログラムの概要
- ③事前課題について説明

社会福祉法人草笛の会
東遠地域基幹相談支援センター 瀧野裕子

1

現任研修の概要と獲得目標

【概要】

- ① 相談支援専門員の人材育成体系とその方法、その中での本研修の位置づけと獲得目標について
(静岡県人材育成ビジョンと本研修の位置づけについて)
- ② 本研修の構造について

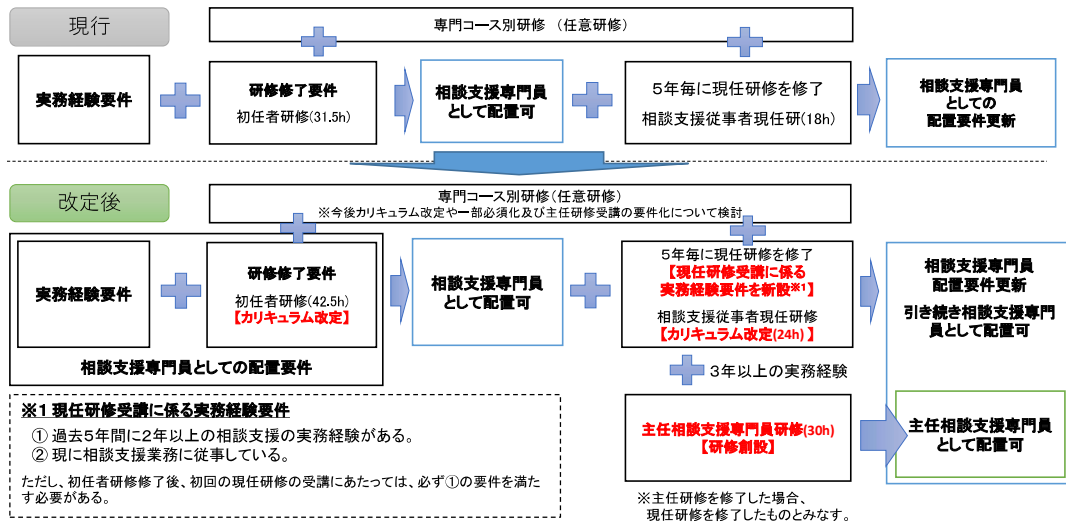
【獲得目標】

- ① 現任研修の狙いや獲得目標、4日間を通して学ぶことなどの現任研修の構造と内容を把握し、本研修に臨む姿勢や方法を理解する。
- ② 本研修が相談支援専門員の人材育成体系の一部であることと、その全体の中での位置づけを知り、継続的な学びの必要性を認識する。

2

相談支援専門員の研修制度の見直しについて

- 意思決定支援への配慮、高齢障害者への対応やサービス等利用計画の質の向上、障害福祉サービス支給決定の適正化等を図り、質の高いケアマネジメントを含む地域を基盤としたソーシャルワークを実践できる相談支援専門員を養成するため、**カリキュラムの内容を現行より充実させる改定を行う**。
- 実践力の高い相談支援専門員養成のために、実践の積み重ねを行いながらスキルアップできるよう、現任研修の受講にあたり、相談支援に関する**一定の実務経験の要件(※1)**を追加。(※経過措置：旧カリキュラム修了者の初回の受講時は従前の例による。)
- さらに、地域づくり、人材育成、困難事例への対応など地域の中核的な役割を担う専門職を育成するとともに、相談支援専門員のキャリアパスを明確にし、目指すべき将来像及びやりがいをもって長期に働ける環境を整えるため、**主任相談支援専門員研修を創設**。



3

1. 現任研修における獲得目標

① 相談支援の基本的業務を確実に実施できる。

【意思決定(支援)を通して生きがいや自己肯定感を高める支援(ストレングス)、相談支援の技術と能力の獲得】

② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を学び、実践においてチームアプローチが展開できる。

【チームアプローチ(多職種連携)を実践するための技術と能力の獲得】

③ コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等)の理論と方法を理解し、実践できる。

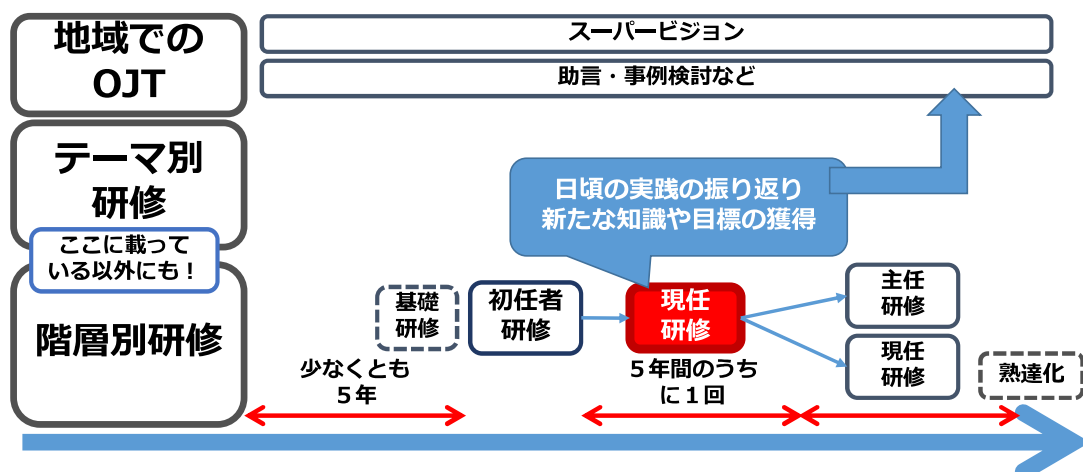
【地域に即した相談支援の実践力の獲得】

④ グループスーパービジョン(以下、GSV)の理論と方法を学び、実践事例を用いてGSVを体験することで、自らの支援について助言・指導を受けることの重要性を理解し、実践につなげる。

【人材育成におけるGSVの重要性の理解の獲得】

4

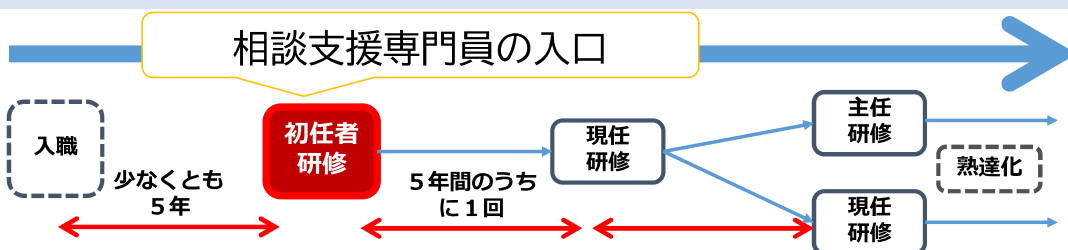
継続的な学びの中での現任研修



- ・新カリキュラムでは、階層に応じた学びと学びの構えの習得を重視しています。
- ・新カリキュラムでは、地域での実地教育(OJT)を**前提**とした法定研修の位置づけとカリキュラム編成を行っています。

5

初任者研修の獲得目標

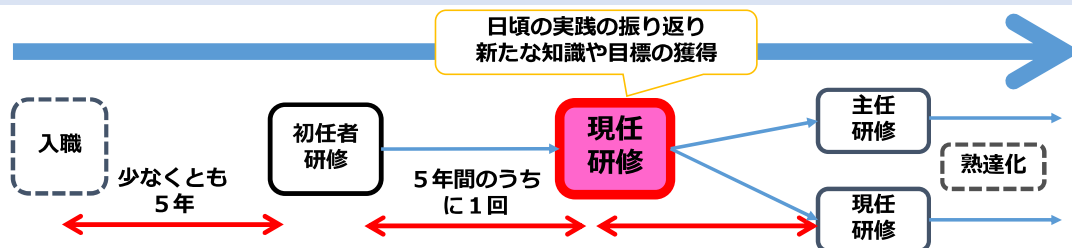


獲得目標

- ① 地域を基盤としたソーシャルワークとしての障害者相談支援の価値と知識を理解する
- ② **基本相談**支援の理論と実際を理解し、障害者**ケアマネジメント**のスキルを獲得する
- ③ **計画相談**支援の実施に関する実務を理解し、一連の業務ができる
- ④ 地域づくりとその核となる（自立支援）協議会の役割と機能を理解する

6

本研修の獲得目標



獲得目標

相談支援の基本的業務を確実に実施できる。

チームアプローチ（多職種連携）の理論と方法を学び、実践においてチームアプローチが展開できる。

コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等）の理論と方法を理解し、実践できる。

実際の事例を用いてグループスーパービジョンを体験することで、自らの支援について指導・助言を受ける重要性を理解し、実践につなげる。

7

静岡県人材育成ビジョンと本研修の位置づけ ～学びの見取り図

静岡県では、第4次静岡県障害者計画（2018年4月～2022年3月）の中で、①共生社会の実現、②自立生活の実現、③安心・安全の実現、を基本理念として掲げ、障害のある人が分け隔てられない共生社会の実現を目指しています。

障害のある人が、地域でその人らしく暮らすためには、福祉・保健・医療・教育・就労などの幅広いニーズと様々な社会資源の間に立って、複数のサービスを適切に結びつけて調整を図るとともに、総合的かつ継続的なサービスの供給を確保し、更には社会資源の改善及び開発を推進する「障害者ケアマネジメント」が必要です。

また、障害のある人が、県内のどこにいても、一定の質が担保された障害福祉サービスを受けるためには、官民一体となって障害福祉人材の資質の向上に取り組んでいくことが不可欠です。

そこで、静岡県障害者自立支援協議会人材養成部会では、ソーシャルワーカーとして「障害者ケアマネジメント」を実行できる人材像を示し、その育成を図るための研修内容や体制等の構築に関する提言を「静岡県障害福祉人材育成ビジョン」としてとりまとめました。

このビジョンは、「制度がどんなに変わっても人材育成の目指すべき方向性は変わらない」という信念の下、相談支援専門員、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者のみならず「障害福祉従事者」全体の人材育成に係る大局観を示したものです。

今後はこのビジョンを踏まえて法定研修・任意研修を実施するとともに、障害福祉従事者等の連携を深め、研修体制の整備と併せて障害福祉従事者の資質や技術の向上を図っていくことが重要です。

8

学びの見取り図 ～障害福祉従事者に求められるもの

静岡県人材育成ビジョン

価値

障害福祉従事者が専門職として活動実践を行う上で、何を大切にし、理念や目標とするかを規定するもの

本人中心・人権・職業倫理/エンパワメント・ストレングス 等

知識

活動実践を行うための社会資源や制度等の専門的知識及び支援アプローチ

実践理論・法制度・地域システム・特性、認知、発達、行動 等

技術

援助場面において本人の目標を達成するため、援助活動に直接活かされる技能や、予め体得しておくべき資質や能力

関係形成・ケアマネジメント・ケースワーク・チームアプローチ等

9

学びの見取り図～研修の関係性

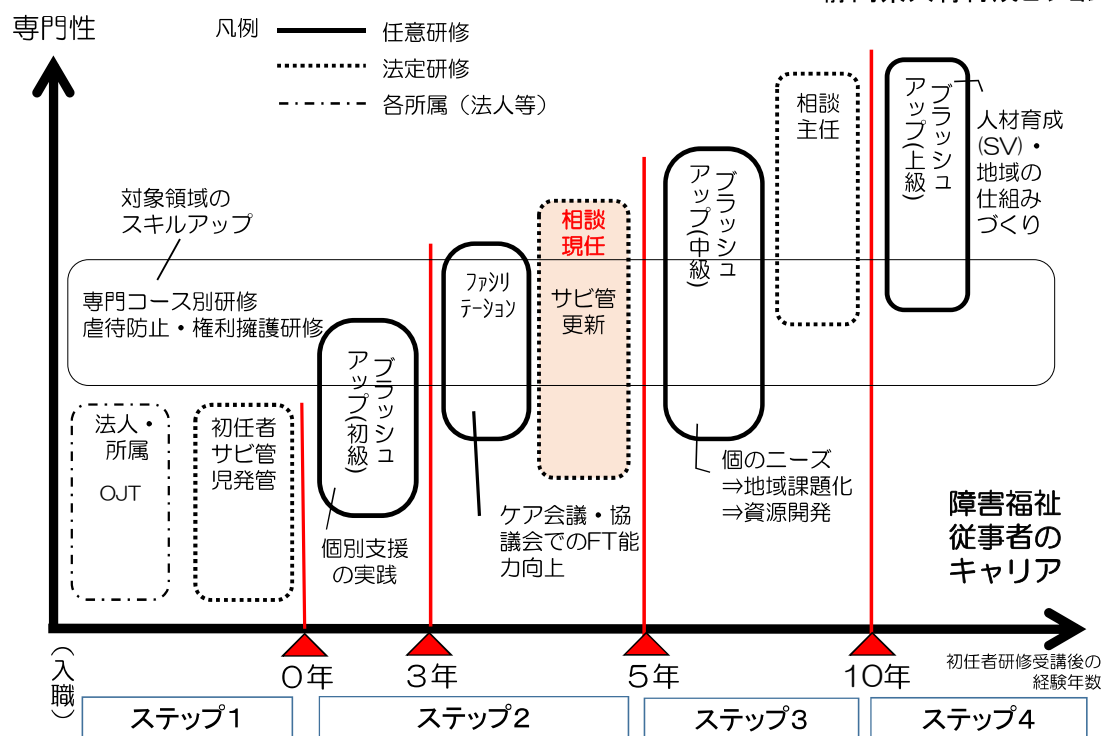
静岡県人材育成ビジョン

研修区分と主テーマ		研修内容 (≡キャリア形成の姿)	主な活動フィールド (重層的な相談支援体制)	相談支援従事者 研修内の実習
主任相談 支援専門員	ソーシャル アクション	県全体の仕組み・体制整備	県自立支援協議会	・ 初任/現任研修の企画、講師 ・ 初任/現任研修受講者への指導、助言 ・ つながり形成
		ステップ4 ・ 社会資源開発・改善促進 ・ 地域課題解決の仕組みづくり ・ 中核的人材育成	第3層（市町～圏域） 基幹相談支援センター、自立支援協議会事務局	
現任 サビ管更新	ソーシャル ワーク	ステップ3 ・ 地域のネットワークづくり ・ 自事業所でのOJT	第2層（現場～市町） 委託相談、障害福祉サービス事業所	・ 基幹からの助言やスーパービジョン ・ 地域の協議会への参画 等
初任者 サビ管 基礎 実践	ケース ワーク	ステップ2 ・ 本人中心の支援 ・ 地域との関係づくり ・ ファシリテーションスキルの活用	第1層（現場） 特定相談、一般相談、障害福祉サービス事業所	

10

学びの見取り図～キャリアと研修体系

静岡県人材育成ビジョン

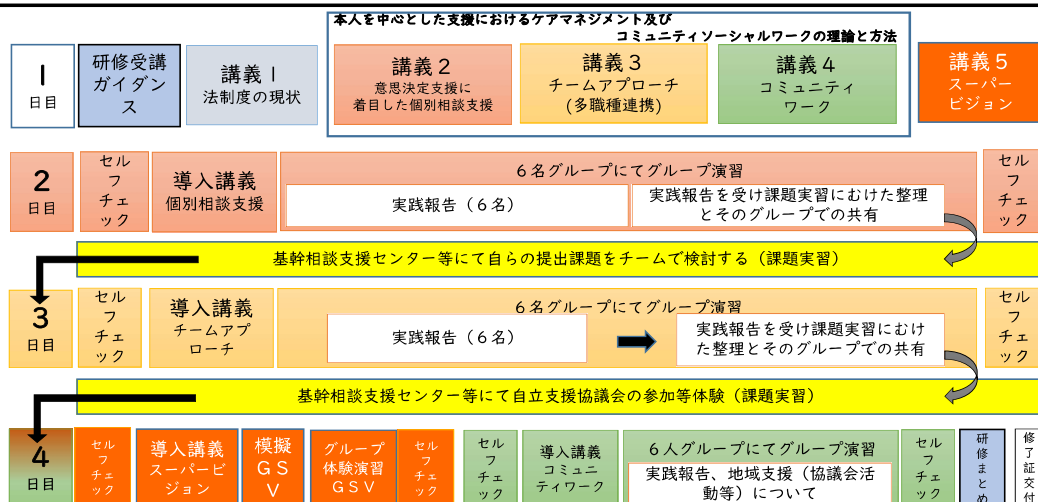


11

現任研修の構造

【獲得目標】 ※初任者研修で扱った価値・知識・技術

- ① 相談支援の基本※を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる
- ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる
- ③ コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルの活用等）の理論と方法を理解し、実践することができる
- ④ スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、継続的な研鑽をしながら実践をすることができる



12

課題実習の目的

- ①自地域の協議会や相談支援体制を再確認し、今後の取組につなげる
- ②実習課題を基幹相談支援センターや協議会等で共有し、各地域における相談支援専門員の状況を共有する。
- ③実習課題の共有を通し、**研修後も継続して助言等が受けられる場面を作り、今後の地域のOJT体制の構築へつなげる機会とする。**

相談支援専門員のスキルアップの契機
地域の支援体制の強化

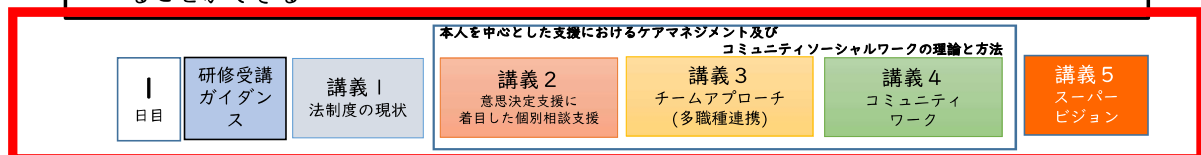
質の高い地域生活支援
の実現

13

1日目 講義

【獲得目標】 ※初任者研修で扱った価値・知識・技術

- ① 相談支援の基本※を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる
- ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる
- ③ コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルの活用等）の理論と方法を理解し、実践することができる
- ④ スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、継続的な研鑽をしながら実践をすることができる



1日目 講義

オンデマンドによる受講
講義1～5を視聴する

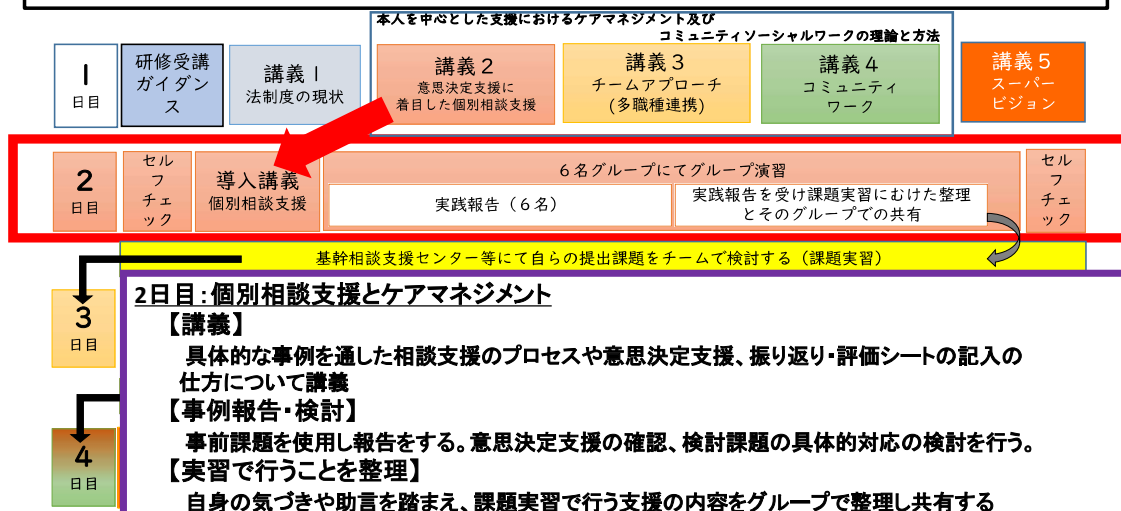
視聴後、各講義ずつ視聴レポートを作成し、提出することで受講確認とします。

14

2日目（講義・演習）の獲得目標

【獲得目標】 ※初任者研修で扱った価値・知識・技術

- ① 相談支援の基本※を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる
- ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる
- ③ コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルの活用等）の理論と方法を理解し、実践することができる
- ④ スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、継続的な研鑽をしながら実践をすることができる



15

3日目（講義・演習）の獲得目標

【獲得目標】 ※初任者研修で扱った価値・知識・技術

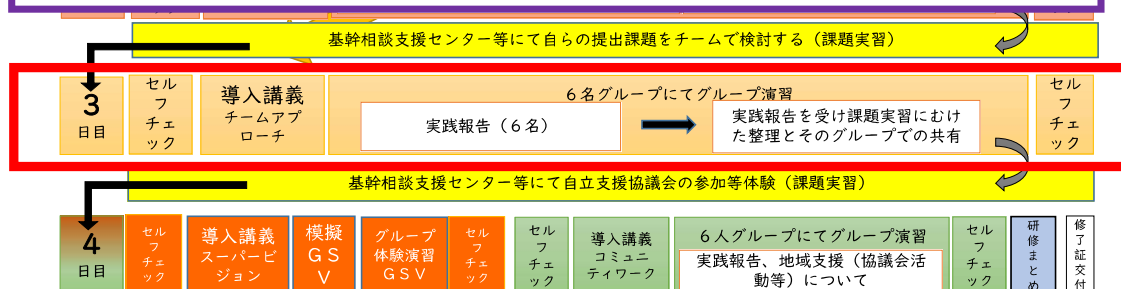
- ① 相談支援の基本※を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる
- ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる
- ③ コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルの活用等）の理論と方法を理解し、実践することができる

3日目 相談支援に求められるチームアプローチ

【講義】
具体的な事例を通したチームアプローチの視点やその必要性についての講義

【実習報告】
実習報告及び本人を取り巻く環境について報告する。

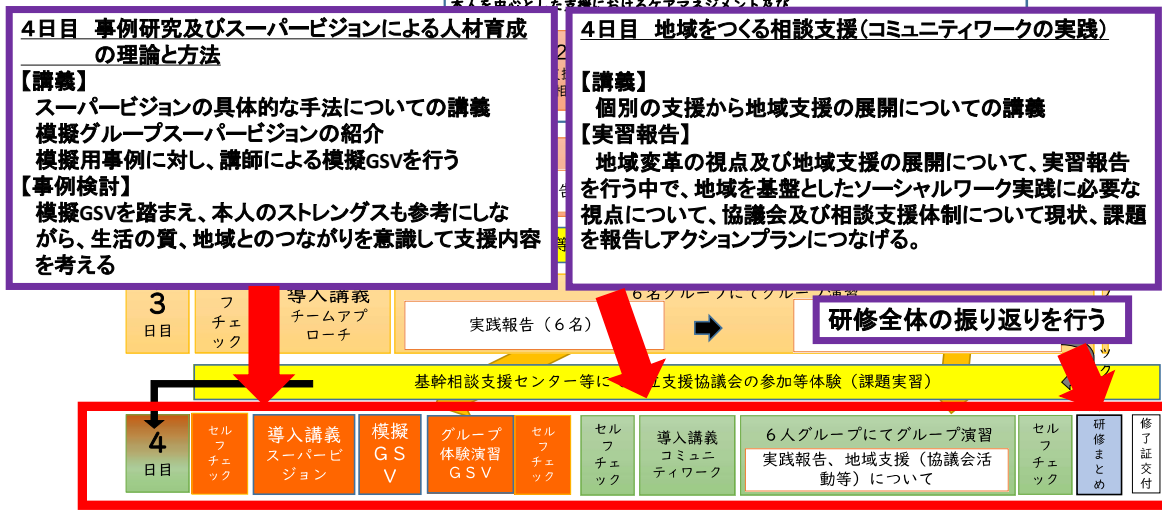
【実習で行うこと、内容整理】
事例ケースから見えた地域の課題、相談支援体制・自立支援協議会の体制や運営状況・
効果などをグループで共有する。



16

4日目（講義・演習）の獲得目標

- 【獲得目標】 ※初任者研修で扱った価値・知識・技術
- ① 相談支援の基本※を理解し、それを基盤とした実践を行うことができる
 - ② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践することができる
 - ③ コミュニティワーク（地域とのつながりやインフォーマルの活用等）の理論と方法を理解し、実践することができる
 - ④ **スーパービジョンの理論と方法を理解するとともに、継続的な研鑽をしながら実践することができる**



17

実習課題の作成について

18

2日目までの課題

(2日目以降の課題は研修内で説明を行います)

・2日目までに提出する課題について (9月4日(木)17:00 必着)

- ① オンデマンドによる講義の視聴レポート(5講義分)
- ② 実習承諾書・誓約書
- ③ 2日目以降の演習で使用する課題
・課題様式1

19

現在のカリキュラムにおいては、困難事例に対する事例検討を行うのではなく、

「個別支援における意思決定支援」

**「意思決定支援がなされたチームアプローチ
(多職種連携)」**

**「個別支援から地域課題を抽出し地域づくりへの展開
(コミュニティワーク)」**

「スーパービジョンを用いた人材育成」

上記4つのテーマで研修が構成されています。

20

<課題説明>
 ○事例シートの項目に沿って、「利用者中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例」について資料の作成をお願いします。
 ○部員や学事関係資料を参考に作成してください。
 ○事例作成に際しては、本人の氏名、居住の地域や利用する施設等が特定されないように、まったく関連性のない名称やアルファベット等に書き換えることとくれぐれもご注意ください。
 ○研修当日にご自身の分も含めて、グループ人数分印刷してご持参ください。

受講者番号：	受講者氏名：
【事例選定】	
【出会い】	
【ニーズの把握】	
【利用者から見える風景及び置かれている環境（エコマップ）】	
1. 出会いの時点 現状： 本人の意思：	

事例シートに沿って、「利用者中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例」についての作成をお願いします。

みなさんが、今まで関わってきた方の中でお1人選定して下さい。

1枚目は、出会いの時間を思い出しながら、その時のニーズの把握や出会いの時点での現状や本人の意思・利用者の置かれている環境などについて記載をしてください。（エコマップは必ず記載）

21

【関係性の構築とプロセス及び関係性の変化（アフターエコマップ）】 2. テーマ： 本人の意思： 相談支援専門員の想いと支援：
【意思決定支援の展開の確認】 事前研修2日目の学習時に使用（事前課題作成時には未記入） ●検討内容：本人の意思と支援者の想いについて、どのようなやりとりがあったかを確認し、本人の意思を整理する。

ここは2日目の演習時に使用するので未記入

2枚目については、「関係性構築とプロセス及び関係性の変化」について記載します。

支援開始から6カ月後くらいに行った支援を振り返ります。

その時期のテーマ・本人の意思・相談支援専門員と想いと支援について記載して下さい。

支援開始から6カ月後に1枚目で記載したエコマップにどのような変化があったかということについてエコマップに追加して記入します

22

【関係性の構築とプロセス及び関係性の変化（アフターエコマップ）】

テーマ：
本人の意思：
相談支援専門員の想いと支援

【意図決定支援の展開の確認】 ※研修2日目の演習時に使用（事前課題作成時には未記入）
●検討内容：本人の意思と支援者の想いについて、どのようなやりとりがあったか確認し、本人の意思を整理する。

ここは2日目の演習時に使用するので未記入

3枚目については、「**関係性構築とプロセス及び関係性の変化**」について記載します。

6か月から1年後くらいに行った支援を振り返ります。

その時期のテーマ・本人の意思・相談支援専門員と想いと支援について記載して下さい。

支援開始6か月から1年後に2枚目で記載したエコマップにどのような変化があったかということについてエコマップに追加して記入します。

23

【関係性の構築とプロセス及び関係性の変化（アフターエコマップ）】

4.
テーマ：
本人の意思：
相談支援専門員の想いと支援

【意図決定支援の展開の確認】 ※研修2日目の演習時に使用（事前課題作成時には未記入）
●検討内容：本人の意思と支援者の想いについて、どのようなやりとりがあったか確認し、本人の意思を整理する。

ここは2日目の演習時に使用するので未記入

4枚目については、「**関係性構築とプロセス及び関係性の変化**」について記載します。

1年後からその後行った支援を振り返ります。その時期のテーマ・本人の意思・相談支援専門員と想いと支援について記載して下さい。

支援開始1年後から3枚目で記載したエコマップにどのような変化があったかということについてエコマップに追加して記入します。

【意図決定支援の展開の確認】 ※研修2日目の演習時に使用（事前課題作成時には未記入）
●潜在化している（心の奥底にある）、本人の意思は…

2日目の演習時に使用するので未記入

24

【結果】

相談支援専門員として、本事例に対し、利用者中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例」について振り返りながら結果をまとめて下さい。

25

実習課題として作成する事例の選定においては、以下の点について留意して作成してください。

実習事例として適切なもの

- ①(福祉サービスを利用しているが)地域資源を活用することで生活の質が高まるといったケアマネジメントの対象となりえる事例
- ②「個別支援からチームアプローチ(多職種連携)への展開」と「個別支援から抽出された地域課題を地域づくりにつなげる(コミュニティワーク)」について検証することができる事例

※事例選定については所属長に確認をとって下さい

※事例については必ず同意をとった上で取り組んでください

26

実習事例として不適切なもの

- ① 健康状態の悪化や虐待事例などの危機介入が必要な事例
- ② 福祉的支援を拒否するなどの事例
(実習期間中に不在になってしまうなど不安定な事例)
- ③ 主相談者が本人ではなく他の人となる事例

※演習に使用される書式はすべて公開されていますので各自ご確認ください
※3日目、4日目の実習課題について、2日目と3日目の研修最後の時間に説明をします

27

まとめ

- ① 現任研修で抑えるべき相談支援従事者の役割・ミッションについてとらえることができましたか？
- ② 本研修で獲得すべきポイントは理解できましたか？
- ③ 今から、4日間の研修に対する姿勢、覚悟は備わりましたか？

いよいよ現任研修が始まります。

日頃の実践を振り返りながら、
講義・演習を通し、具体的に学び直すことで、
相談支援従事者としての活動に活かしていきましょう！

28